

第4学年 国語科学習指導案

指導者 4組 平 埜 牧 子【公開授業Ⅰ】
男子16名 女子16名 計32名
2組 佐 藤 俊 哉【公開授業Ⅱ】
男子16名 女子15名 計31名

1 単元名 人物の気持ちの移り変わりをとらえよう

教材名 「ごんぎつね」(光村図書 4年下)

2 単元について

(1) 児童について

本学年の児童は、これまで会話や行動から人物の人柄や心情を想像する学習を重ねてきた。「白いぼうし」では、情景と合わせて松井さんの優しさが伝わる言動を読み取ってきた。次の「一つの花」では、ゆみ子に対する両親の気持ちの変化を読み取る学習を行ってきた。登場人物の会話や行動、情景描写から、叙述に基づいて自分の考えをもつことができるようになっている。

ペアやグループ交流では、自分の考えや感想を聞き合って自分の考えを広げ、全体交流では、ペアやグループ交流で学んだことを生かしてさらに自分の考えを深める活動を行ってきた。交流の方法が分かり、自分の考えを話したり、友達の考えを集中して聞いたりできるようになっている。国語の意識アンケートでは、「考えを発表するのが好き」という児童が昨年度59%から今回74%になり、「ペア・グループ交流は好き」という児童が昨年度83%から86%になったことにも表れている。

(2) 教材について

第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の目標は、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読み、文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。」ことである。本教材は、いたずら好きのひとりぼっちの小ぎつねごんと、同じくひとりぼっちになった兵十が登場する物語である。主人公のごんは兵十の母親の死をきっかけに、兵十をなぐさめ、喜ばせようと行動するが、その思いも空しくごんの心は兵十には届かない。それどころか、最終的には兵十から撃たれてしまう。このようにこの物語は心を通じ合わせることができない悲しさを描いている。児童は、ごんの取った行動が意外な展開になってしまうことに驚きと悲しみをもって読み進めていくことであろう。また、本教材は、「わたし」が語り手となり伝承風に書き進められている。児童は一人の読み手としてごんの視点に立ったり、兵十の視点に立ったりしながら登場人物の心情や心の揺れ動き、場面の移り変わりを読むことができる。加えて、独語や心内語などを用いて登場人物の心情が描かれ、さらに美しい情景描写があるなど、生き生きとした表現が随所にみられるため、児童は楽しみながら想像豊かに読み進めていくことができる教材だと考える。

(3) 指導について

本単元で付けたい力は、「場面の移り変わりに注目しながら、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取る力」である。文学的文章を読み、感じたことや考えたことを友達と交流していく中で、自分一人では気付かなかったものの見方・考え方を学び、さらに文学的文章の読み方が深くなっていく。これを基軸として、ごんの気持ちの変容を中心に読み取っていく。文章を根拠に自分の考えをもたせるために、ごんと兵十との気持ちが分かる部分にサイドラインを引く。その部分を

根拠に自分の考えをノートに書き込む。

学習の振り返りをする時には、学習を通してごんや兵十の気持ちについて「分かったこと」や「友達の考えから学んだこと」などを視点にして振り返られるようにしていきたい。

単元の最後には、ごんについて感じたことや考えたなどをまとめの作文として書いていく。

本単元では、友達の考えを聞くことで新たな考え方を見出し、自分の考えを広げ、深めるためにグループ交流と全体交流を設定している。グループ交流では、課題について自分の考えをしっかりと決め、叙述に即した根拠や理由を基にして交流していく。自分の考えと比べながら、共通点や相違点に気を付けて聞いたり、友達の考えの良さを見付けたりすることを意識した交流ができるようになれば、自分の考えを広げる活動ができるようになると思う。また、全体交流では、グループで交流したことや学んだことを全員で共有し、さらに詳しく交流することで、より深い読みになると考える。また、ごんや兵十の言動や情景描写などから心情や場面の様子を捉える学習では、自分の考えを広げるためにペアでの交流も取り入れたい。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	○ 叙述に着目して物語文を読み、感じたことや考えたことを進んで交流しようとしている。	○ 場面の様子から、登場人物の気持ちを進んで読み取り、自分の考えを積極的に伝えたり、友だちの考えと比べようとしていたりしている。
読む能力	◎ 場面の移り変わりに注目しながら、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取っている。 【読(1)ウ】 ○ 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。 【読(1)オ】	○ 会話や行動、情景描写を基に登場人物の性格や気持ちの変化を読み取ったところにサイドラインを引いたり、引用したりして自分の考えについて叙述を根拠にノートに書いている。 ○ 交流を通して一人一人の感じたことの違いに気付き、それを踏まえて自分の意見をまとめてノートに書いたり発表したりしている。
言語についての知識・理解・技能	○ 言葉の使い方に気を付けて読み、語彙を増やすことができる。 【伝国(1)イ(ア)】	○ 効果的な情景描写や比喩表現、行動描写、会話を捉えながら読んでいる。

4 単元の指導計画と評価規準（全11時間）

時間	学習活動	評価規準	主な交流活動
1	(1) 「ごんぎつね」の全文を読み、初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 物語に興味をもって範読を聞き、自分なりの感想をもって書いている。【関・意・態】 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ、全体で初発の感想を交流する。 ごんの気持ちについて、ペア、グループ、全体で交流する。 後悔するごんの気持ちの変化について、ペア、グループ、全体で交流する。 つぐないを繰り返すが、失望するごんの気持ちについてペア、グループ、全体で交流する。 兵十への思いが強く表れている行動についてグループ、全体で交流する。
2	(2) 初発の感想を発表し合う。学習の見通しをもつ。意味調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を意欲的に発表しようとしている。【関・意・態】 内容を理解するために必要な語句について国語辞典を使って調べている。【言(1)イ】 	
3	(3) 全文を読み、全体の出来事の流れをつかむ。登場人物や情景描写などの作品の設定を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物などの作品の設定を捉えている。【読(1)ウ】 	
4	(4) 境遇や心情を踏まえ、ごんがどんなきつねなのかということについて考える。 【4年4組公開授業Ⅰ】	<ul style="list-style-type: none"> ごんがどんなきつねなのか、境遇や心情を踏まえ、叙述を基に自分の考えをまとめることができる。【読(1)ウ・オ】 	
5	(5) いたづらを反省し、後悔するごんの行動や気持ちの変化について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ごんの行動や気持ちの変化や兵十の様子が分かる言動について、サイドラインを引いたり引用したりして自分の考えを書いている。【読(1)ウ・オ】 	
6	(6) 兵十につぐないを繰り返すごんの気持ちや兵十の受け止め方に引き合わないと失望するごんの気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 兵十に共感し、精いっぱいにつぐないを繰り返すごんの気持ちの変化や兵十に失望するごんの気持ちが分かる言動について、サイドラインを引いたり引用したりして自分の考えを書いている。【読(1)ウ・オ】 	
7	(7) つぐないのうち、ごんの兵十への思いが強く表れている行動について考える。 【4年2組公開授業Ⅱ】	<ul style="list-style-type: none"> 必死になって兵十につぐないをするごんの気持ちについて、サイドラインを引いたり引用したりして自分の考えを書いている。【読(1)ウ・オ】 	

8	(8) ごんと兵十の気持ちや行動の変化について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 兵十に撃たれたごんの様子や兵十の気持ちが変わったところはどこかについてサイドラインを引いたり引用したりして自分の考えを書いている。 【読(1)ウ・オ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごん、兵十のお互いの気持ちの変化について、グループ全体で交流する。
9	(9) ごんの思いは兵十に伝わったのかについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごんの思いが兵十に伝わったのかについて自分の考えをノートに書き、発表している。 【読(1)ウ・オ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごんの様子について、グループ、全体で交流する。
10	(10) 「ごんぎつね」の学習を通して、ごんについて自分が考えたことをまとめた作文として書きまとめていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごんの様子の変容を踏まえて、ごんについて叙述を基にして自分なりに考えている。 【関・意・態】 	
11	(11) まとめた作文を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。 【読(1)オ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごんについて自分が考えたことをペア、グループ、全体で交流する。

5-1 本時の指導(4/11時間)

【4年4組公開授業I】

(1) 目標

ごんがどんなきつねなのか、境遇や心情を踏まえ、叙述を基に自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の評価の観点と評価規準

観点	評価規準	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
	ごんがどんなきつねなのか、境遇や心情を踏まえ、叙述を基に自分の考えをまとめる。 【読む能力】	ごんが悪いきつねかどうかについて、叙述を基に自分の考えを書いている。 (例)ごんは、悪いきつねではないと思います。理由は、自分がしたことを反省して兵十につぐないをしたからです。ごんは、一人ぼっちでさびしかったのだと思います。	「ごんは、悪いきつねか」「悪くないきつねか」の考えをはっきりさせる。それは物語文のどこからそのように考えたのか、サイドラインを引かせる。ごんの言動に注目して理由を考えさせる。

(3) 研究仮説に関わって

<学習課題の解決に向けて、子供たちが意欲的に交流する場や方法の工夫>

本時では、ごんがどんなきつねかを考えるために、悪いきつね、悪いきつねではないのどちらの考えなのかを一人一人にはっきりともたせた上で、グループ交流を行う。

グループ交流では、司会者を立て、自分はどちらの考えなのか、叙述を基に根拠になったところと理由を発表する。また、友達の考えを聞いて自分の考えに付け加えたり、学んだりしたことなどを書き加える時間を設けることで、自分の考えを広げ深めていく。その後の全体交流では、グループ交流で学んだことなどを付け加えて自分の考えを発表し合い、ごんがどんなきつねなのかについて考えを深めていく。

(4) 展開

段階	学 習 活 動 (○主な発問、◇期待する児童の反応)	指導上の留意点(・)評価(□) 交流活動(☆)
導入 5分	① 前時の学習を想起する。 ② 本時の学習課題をつかむ。 ごんは、悪いきつねだろうか。	・ ごんについて「悪いきつね」「やさしいきつね」と記述している子供の感想を聞かせることで、ごんの人物像についての課題意識を高める。
展開 30分	③ 課題について自分の立場を決め、理由をノートに書く。 ○ ごんは悪いきつね、悪いきつねではないのどちらですか。 ○ ノートに自分の考えを書きましょう。教科書にごんが悪いきつねだと分かるところや、悪くないと分かるところに波線を引き、そう考えた理由をノートに書きましょう。	・ それぞれの人数を黒板に書く。 ・ 行動と気持ちが一致しないごんの気持ちを感じさせるために、考えの根拠となるところに波線を引かせる。

<p>④ グループで考えを交流する。</p> <p>○ ごんが悪いきつねかどうかについて、グループで交流しましょう。自分の考え、根拠になったところ、そう考えた理由も言きましょう。</p> <p>◇ 悪いきつねだと思います。根拠は、「夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしていました。」のところで、理由は村人たちを困らせているからです。</p> <p>◇ 悪いきつねではないと思います。根拠は、「…ちよっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」のところで、理由は、自分がしたいたずらを反省しているからです。</p> <p>⑤ 全体で考えを交流する。</p> <p>○ ごんは悪いきつねかどうかについて、全体で交流しましょう。</p> <p>○ 悪いきつねだと思う人は、どこからそう思いましたか。理由も教えてください。</p> <p>◇ 根拠は、「畑へ入っていもをほり散らしたり、菜種がらの干してあるのへ火をつけたり、百姓家のうら手につるしてあるとんがらしをむしり取っていたり、いろんなことをしました。」のところで、ごんは、農家の人たちの生活が困ることをしているからです。</p> <p>◇ いたずらではすまない、ひどいことをしているからです。</p> <p>○ 兵十には、どんなことをしましたか。</p> <p>◇ 魚をにがした。</p> <p>◇ うなぎをにがした。</p> <p>○ 村人と兵十は、ごんのことをどう思っていたと思いますか。</p> <p>◇ にくんでいた。</p> <p>◇ つかまえない。</p> <p>○ 悪いきつねではないと思う人は、どこからそう思いましたか。理由も教えてください。</p> <p>◇ 根拠は、「次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、…。」のところで、兵十にくりや松たけを持って行って、つぐないをしているからです。</p> <p>◇ 自分がしたことを反せいしているからです。</p> <p>◇ いたずらしたことを後かいしている。</p>	<p>☆ 司会者を中心に4人のグループで考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを表明し、どの叙述を基に自分がどう考えたのか理由をつけて発表する。 ・ 自分の考えと比べて聞き、共通点、相違点、友達の良い考えを見付けるようにする。分からないところは質問する。 ・ 友だちの考えから学んだことを付け加えて、自分の考えを深めていく。 <p>☆ 全体場で、ごんが悪いきつねかどうか、どちらかの立場で考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えの根拠となったところを発表させる。 ・ 悪質ないたずらで村人に大変な迷惑をかけていることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 村人たちがごんのことをどう思っていたかを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えの根拠となったところを発表させる。
---	--

	<p>○ なぜごんは、いたずらをするのでしょうか。</p> <p>◇ ひとりぼっちでさびしいから。</p> <p>◇ 自分のことをかまってほしいから。</p> <p>◇ 村人がさわぐのを見るのが楽しいから。</p> <p>○ ひとりぼっちでさびしいと、どうしていたずらをするのでしょうか。</p> <p>◇ 一人でさびしいから、かまってほしい。</p> <p>◇ だれかのそばにいたいから。</p> <p>⑥ 学習のまとめをする。</p> <p>○ 今日の学習で分かったことを、自分の考えに付け足してノートに書きましょう。</p>	<p>・ なぜ人間にいたずらをするのか、理由を考えさせる。</p> <p>・ いたずらをする理由をごんの境遇からも捉えさせる。</p> <p>・ 自分の考えを見直したり、友達の考えを付け足したりして、自分の考えを広げ、深めていく。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>ごんは悪いきつねではない。理由は、自分がしたことを反せいして兵十につぐないをしたから。ごんは、一人ぼっちでさびしかったのだと思う。</p>	<p>□ ごんがどんなきつねなのか、境遇や心情を踏まえ、叙述を基に自分の考えをまとめている。</p> <p>(ノート・観察)</p> <p>・ グループや全体の交流によって自分の考えを深めることができたかを振り返りとして書かせる。</p>

(5) 板書計画

<p>まとめ ごんは悪いきつねではない。理由は、自分がしたことを反せいして兵十につぐないをしたから。ごんは、一人ぼっちでさびしかったのだと思う。</p>	<p>反せい つぐない</p> <p>・ 次の日も、その次の日もくりや松たけを持っていった</p> <p>・ ちよつ、あんないたずらをしなけりやよかった</p>	<p>さし絵</p> <p>・ 一人ぼっちでさびしい。つまらない。</p> <p>・ 自分をかまってほしい。</p> <p>・ 村人がさわぐのが楽しい。</p>	<p>兵十 村人</p> <p>にくんでいる</p> <p>いたずらばかり</p> <p>・ 畑・・・いもをほり散らす</p> <p>・ 菜種がら・・・火をつける</p> <p>・ とんがらし・・・むしり取る</p> <p>・ 魚をにがした。</p> <p>・ うなぎをぬすんだ</p>	<p>悪いきつね</p> <p>ごんは、悪いきつねだろうか。</p> <p>ごんぎつね</p> <p>新美南吉</p>
--	--	--	---	---

5-2 本時の指導(7/11時間)

【4年2組公開授業Ⅱ】

(1) 目標

ごんが行ったつぐないのうち、兵十への思いが最も強く表れている行動について叙述を基に読み取って、自分の考えを書いて発表することができる。

(2) 本時の評価の観点と評価規準

観点	評価規準	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
	ごんが行ったつぐないのうち、兵十への思いが強く表れている行動について叙述を基に読み取って、自分の考えを書いて発表することができる。 【読む能力】	ごんのつぐないのうち兵十への思いが最も強く表れている行動について、教材文を根拠にして自分の考えを書いて発表している。 (例) 私は(E)にしました。「引き合わない」と思っていたのに、それでも兵十にくりを持っていったからです。	「つぐない」の意味を再度確認して、ごんが行ったつぐないと思われる行動にサイドラインを引いていく。その中から兵十への思いが強く表れている行動だと考える部分を選択させる。またはグループ交流で出た内容をノートに書く。

(3) 研究仮説に関わって

<学習課題の解決に向けて、子供たちが意欲的に交流する場や方法の工夫>

本時では、ごんが行ったつぐないの中で兵十への思いが最も表れているのは何かという課題で、教材文を読んでサイドラインを引いたり、その部分を引用して根拠を書いたりして、ごんの兵十への思いについて読み取っていく。

そこから、グループ交流で自分の考えを発表し、自分一人では気が付かなかったことが分かり、自分の考えを広めていく。理由も合わせて発表し、お互いに質問したり、友達の考えに付け足したりすることで、自分の考えを示す時には文章の記述から根拠を探すようになる。低位の児童にとってはグループ内で出た考えを真似してノートに書きまとめる。

各グループで交流した後、自分達の考えを発表していき、学級全体で交流していく。全体交流で出た考えの中で叙述に基づいていない内容や課題と合わない内容は削っていき、学級全体として考えをしぼっていく。全体交流で考えがいくつかにまとまったものの中から、「ごんの兵十への思いが強く表れている行動はどれか」についてさらに全体交流で考えを発表していき、神様だと思われて「つまらない」「引き合わない」と自分の思いが理解されなくても、兵十に尽くしたいというごんの思いを読み取っていく。

(4) 展開

段階	学 習 活 動 (○主な発問, ◇期待する児童の反応)	指導上の留意点(・)評価(□) 交流活動(☆)
導入 5分	① 前時まで学習を想起する。 ○ ごんは兵十に対してどんな気持ちをもっていましたか。	・ 精いっぱいをつぐないを繰り返すごんの気持ちや兵十に引き合わないと失望するごんの気持ちについて確認する。
	② 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ごんのつぐないのうち、兵十への思いが最も強く表れているのはどれですか。</div>	
	③ 本時の課題について、教材文でそれが分かる箇所にサイドラインを引く。	・ 本時の学習活動の流れを確認する。 ・ ごんがしたつぐないが分かる箇所にサイドラインを引いていく。

展開
30分

○ ごんがしたつぐないは何ですか。発表して、みんなで確認します。

④ ごんがしたつぐないについて確認する。

◇ (A) 兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げ込んで、あなへ向かってかけもどりました。

◇ (B) 次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十のうちへ行きました。

◇ (C) 次の日も、その次の日も、ごんはくりをひろって兵十のうちへ持ってきてやりました。

◇ (D) その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本持っていきました。

◇ (E) その明るる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。

⑤ 本時の課題である、ごんのつぐないのうち、兵十への思いが最も強く表れている行動について考える。

○ 自分の考えとそのわけをノートに書きなさい。

⑥ グループで意見を交流する。

○ ごんのつぐないのうち、兵十への思いが最も強く表れている行動について、グループで発表し合います。

自分の考えと比べながら聞きます。同じ意見でも違う意見でも聞いて、どんどん自分の考えに付け足していき、全体交流の時に発表できるようにします。グループ交流を始めます。

・ ごんのつぐないだと分かるところの教科書のページや行数も発表させて、全体で確認していく。

・ いくつか見つけられなかった児童は、発表を聞いてサイドラインを引いていく。

・ 考えを整理しやすくするために、各意見に記号を付ける。

・ 自分の考えを明確にさせ、文章を根拠にしてノートに書く。

・ 自分の考えの根拠となる部分を文章から見つけて線を引く

・ 全体で人数を確認し、グループ交流、全体交流に活かしていく。

☆ 4人のグループで意見を交流する。

・ グループ全員が同じ考えの場合は、友達の考えを聞いて自分の考えに付け足していく。違う考えがあった場合でも、いろいろな考えがあることに気づき、書き足していき、自分の考えを深めていく。

・ グループだと同じ考えでも理由が違うことが予想されるので、どの叙述を根拠に自分がどう考えたのか理由を発表する。自分と違う考えに質問したり、確認したりしていく。グループ内で交流を深め、自分の考えが深まり、全体交流に活かしていく。

□ ごんが行ったつぐないのうち、兵十への思いが強く表れている行動について叙述を基に読み取って、自分の考えを書いて発表している。
(ノート・発表)

	<p>⑦ 全体で交流する。</p> <p>○ ごんのつぐないのうち、兵十への思いが最も強く表れているのはどれですか。</p> <p>◇ (A) 命がけていわしをとってきた。かけもどっている。</p> <p>◇ (B) Aで失敗したから、おわびの気持ちがある。くりを「どっさり」拾っているから。</p> <p>◇ (C)「かわいそうに」「あんなきずまで」とあり、同情しているから。</p> <p>◇ (D) 何日も続けている。くりだけでなく、高級な松たけも持ってきたから。</p> <p>◇ (E) このあと、ごんのことを分かってもらえるから。</p> <p>⑧ 学習のまとめをする。</p> <p>○ 今日のまとめをします。(E)の考えとわけをノートにまとめます。</p>	<p>☆ 全体交流の場で、兵十への思いが最も強く表れているつぐないについて、討論形式にして考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートに書いた自分の考えを発表する。違う考えの人に理由を付けて反論してよい。文章のどの部分を根拠に考えたのかも発表させる。 ・ 全体交流を進めていく中で、必要に応じてノートに自分の考えを付け足していく。自分の考えを見つめ直したり、友達の考えに自分の考えを付け足したりして、考えを広め、深めていく。 ・ 討論の様子を見て、必要であれば補助発問する。(E)の考えで、理解されなくても、兵十のために尽くしたいというごんの気持ちを全体で読み取っていく。 ・ (E)の行動とその理由について、ノートにまとめる。
<p>神様だと思われて、「つまらない」「引き合わない」と言っていたが、それにも関わらず、その明るる日もごんはくりを持っていった。兵十につくしたいという気持ちが表れている。</p>		
<p>終末 10分</p>	<p>⑨ 本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <p>○ 今日の学習を振り返って、分かったこと、学んだことや次の学習で頑張りたいことなど、振り返りを書きましょう。</p> <p>○ 次の国語では、兵十がごんを撃った場面で、ごんと兵十のそれぞれの気持ちについて考えていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りは、自分の考えを明確にすることができたか、友達の考えを聞いて学んだことは何だったかという観点を示し、ノートに書く。数名発表させる。

(5) 板書計画

<p>↓兵十につくしたいという気持ち</p> <p>その明るる日もごんはくりを持っていった。</p> <p>わかない」と言っていたが、それにも関わらず、</p> <p>E 神様だと思われて、「つまらない」「引き合</p> <p>まとめ</p>	<p>↓この後、ごんのことを分かってもらえる。</p> <p>E その明るる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。</p> <p>↓何日も続けて行った。松たけも。</p> <p>D その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本持っていました。</p> <p>↓「かわいそうに」「あんなきずまで」</p> <p>C 次の日も、その次の日も、ごんはくりをひろって兵十のうちへ持ってきてやりました。</p> <p>↓Aで失敗。おわび。どっさり拾った。</p> <p>B 次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十のうちへ行きました。</p> <p>↓命がけてやっている。かけもどっている。</p> <p>A 兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げ込んで、あなへ向かってかけもどりました。</p>	<p>ごんぎつね</p> <p>ごんのつぐないのうち、兵十への思いが最も強く表れているのはどれか。</p>
---	---	---

